

湖北農業 「かあらぼん」

令和4年
冬号
2022/No.2



発行■滋賀県湖北農業農村振興事務所 農産普及課 ■発行責任者 西村 誠
〒526-0033 滋賀県長浜市平方町1152-2
TEL:0749-65-6629 ~ 6632 FAX:0749-65-5867 E-mail:ga33@pref.shiga.lg.jp

令和6年産より小麦の品種が 「農林61号」から「びわほなみ」に変わります



現在、国内に現在流通している小麦の多くは外国からの輸入ですが、近年は消費者や加工業者から国産を求める声が多く出ています。

「びわほなみ」は、平成31年4月に滋賀県の奨励品種に指定され、外国産小麦に劣らない高品質な小麦粉の原料として高い評価を受けています。湖北地域では、令和4年産から「びわほなみ」の栽培が開始され、令和6年産で「農林61号」から全面転換されます。

また、滋賀県全体では、令和7年産から全面転換が予定されています。

📺らくのうる湖北

フェイスブック：

<https://www.facebook.com/lacnord.kohoku.nogyo/>

インスタグラム：

<https://www.instagram.com/kohoku.miryoku.hassin/>

Instagram始めました！
フォローお願いします！



Facebook



Instagram

収量が多く、倒伏しにくく、もちもちした麺になる「びわほなみ」!

●「びわほなみ」の特徴(「農林61号」との比較)

- ▶ 収量が20~30%多い
- ▶ 稈長が短く、倒伏しにくい
- ▶ 成熟期の穂の外観は白く、ほとんど芒がない
- ▶ 製粉性・製めん性に優れ、「びわほなみ」を100%使用した小麦粉も商品化されています。



びわほなみ

農林61号

●栽培上の注意点

- ・ 赤かび病に弱いため、開花期とその7日後の2回防除が必須となります。また、開花期以降に降雨が続き赤かび病が発生しやすい年では3回目防除も必要です。
- ・ 自家採種をすると穂の色や形等が異なる異形株が発生することがあるため、毎年種子更新が必要です。
- ・ 前年「農林61号」を作付けした後に「びわほなみ」を作付けた場合、「びわほなみ」に「農林61号」が混じることが確認されているため、品種切り替え時には水稻跡に作付けましょう。

特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」に注意!!!

近年、湖北地域で「ナガエツルノゲイトウ」の発生地域が拡大しています。

「ナガエツルノゲイトウ」は、水中でも陸地でも生育でき、茎の断片でも増殖することから、刈り払いは厳禁です。また、生きたまま抜き取って移動させることは、外来生物法で禁止されており、適正な対応が必要です。

発見したら、まずは当課にご連絡ください。



水田に侵入した「ナガエツルノゲイトウ」

専門技術を学びませんか! 滋賀県立農業大学校 令和5年度 学生募集!

近代的な農業を行うために必要とされる高度な専門知識と技術および経営能力を身に付けることができます。農業を始めるにあたり、まずは農業大学校で学んでみませんか。

養成科

【募集定員】30名(内推薦入試20名程度) 【修業年限】2年
 【試験日】一般入学試験
 <一次募集> 令和4年12月13日(火)
 <二次募集> 令和5年2月14日(火)
 *二次募集は一次募集で定員に達した場合は実施しない
 【願書受付】<一次募集> 令和4年11月25日(金)~12月6日(火)
 <二次募集> 令和5年1月20日(金)~2月2日(木)
 *郵送の場合は当日消印有効

就農科

【募集定員】15名 【修業年限】1年
 【選考日】<一次募集> 令和5年1月6日(金)
 <二次募集> 令和5年2月28日(火)
 *二次募集は一次募集で定員に達した場合は実施しない
 【願書受付】<一次募集> 令和4年11月8日(火)~12月9日(金)
 <二次募集> 令和5年1月25日(水)~2月10日(金)
 *必着
 ★就農科を希望される方は、願書受付期間までに必ず当課にご相談ください。

詳しくは、当課もしくは農業大学校までお問い合わせください。
 近江八幡市安土町大中503番地 TEL:0748-46-2551 FAX:46-2552
 URL <https://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/daigakkou/about/>



農福連携をご存知でしょうか？

農福連携とは…？

農福連携とは障がい者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持ち社会参画を実現する取組です。本県では、農業分野における障がい者の活躍の場を広げ「誰もがいきいきと地域で暮らし、ともに働き、ともに活動する共生社会づくり」を目指しています。

湖北地域の取組は？

長浜市高月町の(有)もりかわ農場では勤務年数8年目になる1名の障がい者の方がおられます。地元の高校からの紹介で2週間のインターンシップを経た後、就職されました。もりかわ農場によると当初は、戸惑い等もあったそうですが、本人の努力や周囲の理解と手助けにより今では他の従業員と変わりなく仕事をされています。



波板を手際よく回収されている様子

また初めての作業も2、3回繰り返すことで習得され、「様々な作業をとて真面目に行ってもらえありがたい」とのことでした。ご本人は「農業は初めてでなにもかも新鮮でした。周りの支えもあり自分にできる範囲で頑張っています」とおっしゃっていました。

農福連携に取り組みませんか？

農福連携と聞くと難しいように感じるかもしれません。障がい者の方もそれぞれ得意、不得意があります。実際にどのような作業をしてもらえるのか？など疑問も多いと思います。本県では、そのような疑問など農福連携に関する相談を随時受けつけております。関心のある方は当課までお問い合わせください。

花き栽培のすすめ・・・小菊栽培を始めてみませんか！

「湖北の小菊」は、JAを通じて京都や大阪の花き市場や長浜市場に出荷されています。

従来の75～65cm規格から、仏花組花用の45cm規格「プチマム」の栽培が主流となっています。

盆や彼岸向けの露地栽培が中心ですが、品種を組み合わせることで、6月から11月まで出荷できます。1aから取り組め、軽作業が多く、中山間地でも栽培可能です。



小菊のほ場

8月、9月、10月咲のプチマム栽培ごよみ

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
(8月咲き)			親株管理	- 採穂 ▼	△-摘心			■		親株管理		
(9月咲き)			親株管理	- 採穂 ▼	△-摘心				■		親株管理	
(10月咲き)				親株管理	- 採穂 ▼	△-摘心				■		親株管理

▼さし芽 △定植 ■出荷期

JAの花き部会に加入すれば技術研修が受けられ、初めての方でも安心して取り組みます。

関心のある方は当課もしくは地元のJAにご連絡ください。

受賞おめでとうございます

黄綬褒章 北村 富生さん(長浜市鳥羽上町)

北村さんは、昭和32年から兼業農家として農業に従事され、重要な担い手として活躍されてきました。特に野生獣による農作物被害に対しては、他所の獣害防止柵の情報を集めて、被害防止効果を高める獣害防止柵を発案される等、被害軽減と安定生産に精励されてきました。

また、農作物や生活の被害防止を目的とした組織の設立・運営に携わり、獣害対策アドバイザーとして被害防止技術の指導・助言をされるほか、県・市町、関連団体等への支援にも積極的に取り組み、獣害に悩む地域の被害軽減と地域活性化に貢献されました。



地域の新規就農者のご紹介

磯崎 純平さん(米原市磯)

磯崎さんは、農業ビジネスに将来性を見出し、令和2年に就農し、農園「GREEN QUEST (グリーンクエスト)」を立ち上げられました。現在は約30aの農地で、化学肥料・化学合成農薬を使用せず、ニンニクを中心に多品目の野菜を栽培し、黒ニンニクの加工にも取り組んでおられます。野菜や加工品は、地元スーパーやSNS等で販売されています。おいしい野菜をお客様に提供することを軸に、令和5年春からは農地を拡大される予定です。



山岡 昭博さん(長浜市高月町東阿閉)

山岡さんは、令和3年春に県立農業大学校就農科を修了後、900㎡の施設でイチゴ栽培を開始されました。経営開始時、コスト低減のため栽培ハウスは全て足場パイプを用いて自主施工されました。その後も常にコスト面を考慮した経営に取り組んでおられます。

販売面では、湖北苺出荷協議会に加入し、「こほくいちご」ブランドとして地元で直売されているほか、地方卸売市場やJAの直売所にも出荷されています。

今後は、水稻部門の導入を視野に入れ、複合経営による所得安定を目指される予定です。



高田 伸介さん(長浜市東上坂町)

高田さんは、飲食店4店舗の経営者ですが、自らが農産物を生産する側に立ちたいという思いから、岐阜県のイチゴ生産法人で研修を受け、合同会社ファインファームを設立されました。

東上坂町の遊休建物を活用してハウス2棟を建て、認定新規就農者となり、令和2年に「長浜観光農園ごんせ」を開業。夏も収穫できるイチゴ観光農園5aとカフェ「いちごとミルク」を運営されています。他産業の経営ノウハウと、「人の強みを活かし、人と人とのつながりを大切」にし「食」を通じて地域の方々を元気にする農業経営を行っておられます。

